

## 町民会議の今後を考える会 結果報告書

1 日 時 平成 30 年 9 月 7 日（金） 14：00～16：20

2 場 所 箱根町役場分庁舎 第 6・7 会議室

3 出席者 計 16 名

- ・町民会議元委員 7 名：内田良雄氏、安藤雅章氏、中村光章氏、  
勝俣昭彦氏、勝俣昌美氏、澤村吉之氏、杉山慎吾氏
- ・町民 3 名：鈴木美貴氏、山田正氏、山田和江町議会議員
- ・学識経験者 1 名：池島祥文准教授
- ・町 5 名：吉田功企画観光部長、村山企画課長、  
伊藤企画課副課長、辻満特定政策係長、海野

#### 4 会の概要

村山企画課長のあいさつのあと、プログラムに沿って進めたもの。

##### [プログラム]

##### 1 町からの説明

(1) 町民会議について

(2) 「町民会議の今後について」のアンケート結果について

##### 2 意見交換

##### ○資料

資料 1 箱根町行財政運営を考える町民会議の概要

資料 2 「町民会議の今後について」のアンケート集計結果

### 開 会

#### ●企画課長

本日は、大変お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

町民会議の今後のあり方については、平成 29 年 11 月に提出いただいた提言書の中で「町民会議として検討を継続し、何らか提案していきたい」とされていました。

これを受け、7月上旬に開催した町民会議では、今後のあり方についてグループ別、また、全体で意見交換を行いました。結論を得るところまで至らず、その際のご意見を踏まえて、本日、「町民会議の今後を考える会」という形で、委員さんだけでなく町民の方も対象とした議論の場を設けさせていただきました。

委員の皆さまには、この間、アンケート調査にも協力いただきましたので、その結果も参考としつつ、今後のあり方について、活発なご議論をお願いしたいと思います。

また、本日の考える会の開催にあたりましては、町民会議のアドバイザーであった横浜国立大学の池島先生に意見交換の進行役をお願いしたところ、ご多忙の中、快諾いただき、誠にありがとうございます。

それでは、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### プログラム1 町からの説明

町事務局から、町民会議の今後の扱いについて（資料1の別紙2）と町民会議の今後についてのアンケート調査の結果（資料2）を説明した。

### プログラム2 意見交換

進行役から、前回の町民会議（7月6日開催）における町民会議の今後の扱いについての議論を振り返ったあと、町民会議の今後の扱いについて意見交換を行った。

#### ●進行役

みなさん、お久しぶりです。

前回の町民会議における町の考え方は、町民会議は、当初の目的は達成したと考えており、今後、皆さんで主体的に検討を行い提案していただきたいということでした。それを前提に議論した結果、町民会議のような組織はあった方が良い思う一方で、気持ちはありながらも自らが主体となって活動するのは難しいと感じた方が多かったようで、結論には至りませんでした。

本日、委員全員が参加している訳ではありませんが、何らかの結論を出したいと考えていますが、委員でない方は、分からない点があれば質問をしてほしいと思います。

それでは、まず、アンケート調査の結果を参考にしつつ、皆さんの考えを確認していきたいと思います。

問1の今後の町民会議の扱いは、「今回で区切りをつける」が2名、「何らかのかたちで継続する」が5名という結果でした。

また、問2のテーマや対象は、前回の町民会議の議論の延長となるような「行財政運営」や「行政サービスの在り方」といった意見があり、これは、町民会議でしか議論できないのか、別の組織でも議論できる



のかといった部分にも係わってくるかと思えます。

●出席者

私は、町民会議は今回で区切りをつけ、以降は別として考えるべきであると思えます。また、町の考え方は町民主体で検討を進めてほしいということですが、町が全て手を引くのではなく、何らかの形で係わることは可能なのでしょうか。

●企画課長

町民会議は提言書という成果を得て当初の目的を達成し、町としては区切りがついたと考えています。町が係わることができる範囲は内容により変わるかと思えますが、町民会議と同様の形を今後も続けるのは、難しいと考えています。

●進行役

町主催として会議の目的を定め、資料を準備するなどのことは難しいということですね。会場の提供や告知などは可能ですか。

●企画課長

それは可能ですし、必要な情報を提供することはできるかと思えますが、会議体によっては、予算措置も検討する必要が出てくると思えます。

●出席者

資料1に「第6次総合計画の目標指標として『誰でも参加できる町政情報提供機会を設ける』ことを位置付けており、町政全般に関わるような第6次総合計画や行財政改革アクションプランの進捗状況、財政状況や公共施設の更新問題などについて情報提供し、意見を伺う場を設けることを予定しています」とありますが、その検討状況を教えてください。

●企画課長

従前の総合計画は、策定後、行政内部のみで進捗管理を行っていましたが、第6次総合計画では、毎年度、審議会を開催し、外部の意見を伺いながら進捗管理を行っていくこととしています。今年度も10月を目途に審議会を開催し、どのように意見を伺う場を設けるか検討していきたいと考えています。

●出席者

提言書の概要版では、「行政には、本提言書を真摯に受け止め、盛り込まれた提案内容を役場職員全体で共有して、できる限り実行に移していくことを求めます」としていますが、実際に提言書を職員に周知し意見を吸い上げるなど、どの程度まで提言

内容を検討しましたか。

●企画課長

町長から、提言書の内容を真摯に受け止め、全職員が必ず一読するよう指示があり、その後、企画課から部課長に対しては直接、内容を説明するとともに、各職員が直接閲覧できるよう庁内ネットワーク上に提言書を掲示しました。

検討結果の例としては、高校生を対象とした電車・バス共通定期券の導入を行財政改革アクションプランの推進項目としたことなどが挙げられると思います。

●出席者

議会の反応はどうでしたか。

●出席者

議会に対して内容の説明はありましたが、現在のところ、提言書を踏まえた検討は始まっていません。

●企画課長

平成 30 年 1 月に開催した「町の経済と財政を考える集い」には、多くの議員さんが参加していましたので、個人的には真摯に受け止めた方も多かったのではないかと思います。

●進行役

個人的には町民会議に区切りをつけてよいと思いますが、小規模でも皆さん自身が主体となって運営するような後継組織であれば、実現可能だと思いますが、仮に従来と同じ形で継続したいという意見が多かった場合に、町で実施は可能ですか。

●企画課長

固定資産税超過課税の導入が町民会議の発端でもあり、現在、平成 31 年度以降の財源確保策について議会で審議していますが、その結果にもよるかと思います。

●出席者

先日、回覧で 7 月に開催した「財政対策に関する説明会」の質疑応答が回っていましたが、3 年間の時限措置であった超過課税が今後も必要であると既成事実ともとれる回答で、それでも他団体と比較すると税負担が軽いと説明されており、当初の目的を忘れていたような印象を受け、腑に落ちない点が多くありました。

3 年間で終わらず超過課税の必要性があることは確定的であると思いますので、町民会議には区切りをつけるべきであると思いますが、後継組織が、資料や情報のない

行政以外の運営主体では目的も方向性も定まらないので、町にはその辺りのサポートはしてほしいと思います。

●出席者

7月の説明会は、何人が参加しましたか。

●事務局

7月6日に開催した町民会議も含めると、全10回で83人の参加者でした。

●出席者

参加人数について、率直な意見はどうですか。

●企画課長

平成27年度の超過課税導入時の説明会と比較すると、明らかに少ないと思います。

●出席者

町民からの具体的な提案があるかないかで町の対応も違うと思いますが、皆さん諦め半分で、次の議論を考えているのかもしれませんが。

町民会議が提言書という成果を残したことを評価するのであれば、町として、意見聴取の機会を増やしていきたいと考えていますか。

●企画課長

以前は、まちづくり懇談会など広聴の取組みも行っていましたが、他団体の実施例と比較すると箱根町は参加者が少なく、参加いただいても毎回、同じ参加者という状況のため、行われなくなったという経緯があります。

●出席者

行政サービスのうち削減できるものや、事業の良し悪しについて、町と議会で議論できる体制はありますか。

●企画課長

予算編成前に議会会派や自治会からの要望のなかで、事業の見直しに関する意見もあります。

●進行役

町では、公的な意思決定前に議論する場がないのということで良いでしょうか。

●出席者

行政が必要と思っていることと、町民や事業者が必要と思っていることに乖離が生じているのではないかと感じます。

●出席者

資料2問3の意見にもありますが、若い世代の意見が重要ではないかと思えます。

私は、仕事の関係で転出したいと家族に相談した時に、子ども達は箱根に住んでいたいと答えました。親の都合で通勤や通学を理由に転出する方は多いですが、箱根で育った子ども達は箱根が好きで、成人式を箱根で参加したいという意見も聞きます。ただ参加してくださいと呼びかけても効果は薄いと思えますので、無作為抽出で参加を依頼するなど、若い世代が議論に参加する機会を設けるべきと思えます。

また、私も行政と町民の考えが乖離しているように感じるので、町を変えるため、若い世代も参加した議論の場として町民会議の後継組織を活用できればと考えます。

●出席者

何度か町民会議を傍聴しましたが、女性委員の割合が少ない印象を受けました。箱根町は、男性より女性の割合の方が多く、財政や経済のことは難しく敬遠しがちになるかもしれませんが、避けられない問題であるため、女性委員が多く参加する組織であってほしいと思えます。

●進行役

地域ごとではなく、町全体のイベントで町民が参加し易いものはありますか。

●出席者

旧5か町村の意識も根強く、名称は町民大会のようなものもありますが、町全体での祭りなどイベントはありません。

●出席者

地域間に距離や高低差もあり、対象を町民全体として講演会等を開催しても集まりにくい印象があります。

●出席者

皆さんそれぞれで具体的に実現したいことを考えていると思えますが、今、議論しなければならないのは、今後の組織や仕組みについてです。現在は、良い所も悪い所も全て行政任せになっており、行政としても冒険しにくい状況になっており、その辺りは是非議論したいですが、その議論は町民会議でなくても可能できますので、町民会議は区切りをつけ、次の議論の場や提言を考えることが必要かもしれません。

**●出席者**

町民会議に区切りをつけることは賛成ですが、後継組織については、町民主体ではまとまった議論が難しく立場的な問題もあるので、町にはしっかり入ってもらわなければ継続は厳しいと思います。その場合、どのような組織がよいかを悩んでいて、自分の結論が出ていません。

意見聴取の機会について、町のパブリック・コメントなどは回答数が少ないと思いますし、町は、町民が参加する意見交換の場を設けることをプラスに考えて欲しいと思います。行政サービスの是非を考える際に、一部の町民は必要ないから削ってよいという意見がある一方で、受益者からすればなくては困るという意見も出ると思いますし、様々な方と細かく意見交換できる場を、町が設けるのがよいと思います。

**●出席者**

町民会議は、固定資産税の超過課税導入と引き換えに、町が町民の意見を聞いていることを示すために設置され、我々はそれに付き合わされたと思っています。

超過課税導入時も地域説明会が行われていましたが、参加者数は少なく、聞いても難しく理解できない、税金を上げられるのは嫌だが、その程度なら許容しようという気持ちで聞いていたと思います。その時に町が約束したこと、消防職員を削減するなど退職者不補充ながらも実施されたと思いますが、それ以外は、ほとんどが実施されなかったのではないかと思います。

箱根町は人口減少・高齢化が急速に進んでおり、特に仙石原の高齢化は顕著で、10数年もすれば地域住民の半数が高齢者ということが現実となります。そのような問題を議論する場があればよいと思いますが、町民会議に参加して箱根町は住む所ではなくてテーマパークだ、観光客が遊びに来るところだという意見もありましたが、そのくらい割り切った考え方も必要かと思うようになりました。

**●出席者**

皆さんは、住んでいる周辺の家族構成や就業・就学の状況なども知っていると思いますが、10年先にも同じ家庭が同じ場所に住んでいるかという大半が居なくなってしまうというのが、現状であると思います。

町民会議は2年間議論を重ねてきたわけですが、次のステップの際にこの議論を踏まえた組織でないと、2年間が無駄になってしまうように感じます。

**●出席者**

町民会議は、超過課税を発端に町財政を知りたくて参加された方もいると思いますが、町が意見を伺いたいと投げかけた時に、率先して意見を発言してくれる人づくりが重要で、多くの人に気軽に参加してもらえる場が必要かと思っています。

7月に町が開催した財政説明会は、参加者から難しいとの感想もありましたが、町民として知らなければいけない内容ですし、そのようなことに対しても皆で議論することのできる人づくりが重要なので、大変ですが続けてほしいと思います。

●出席者

今回、議会に上程した条例案はどのようなものですか。

●企画課長

超過課税の税率は同様で、期間を「当分の間」とさせていただきました。

●出席者

超過課税により目先の財源不足を補ってもこの先の状況は変わらないので、東京オリンピック・パラリンピックもありますし、道路事情の改善や不動産の価値向上に向けた議論をしっかり行うことが重要であると思います。

●出席者

資料2のアンケート結果を見て、何らかの形で継続するという意見が多いと感じました。町民会議のテーマは、町民の生活に直結する非常に大きな問題でしたが、提言書という成果により節目を向かえ、今回で区切りをつけてよいと思います。

しかしながら、本日の会で様々な意見を聞いたうえで、提言書を提出したことで今後町政にどのように反映されていくのかを確認する組織を、町民会議の委員が継続して行うのか、あるいは先ほど意見のあった若い世代なのか、主体は様々に考えられますが、そのような議論を行う場はあった方がよいと思います。

また、財政説明会に出席して町民の一人として感じたのは、参加者が少なく、これだけ町民の生活に直結する内容に関心がないことが残念でした。箱根町は、人口規模相当の救急車は他団体では1台で済むところを4台必要であり、その分人件費も多く必要となります。ごみ処理や下水道についても、多くの観光客が訪れることによる経費が余計に掛かります。不要なサービスを削ることは可能かもしれませんが、生活の根幹となるサービスを削ることはできませんし、観光をやめるという選択もあり得ません。これらの経費は町民等に求めるしかありませんので、この問題に関心をもってもらうことを前提として、町に求めるのではなく、自分達の問題として認識し市民性を高めていかなければならないと、自分自身反省しました。

一例として、小田原市であれば健民祭の時に本部テントに市職員は一人もいませんが、湯本では町職員がいなければ運営できない状況でした。このため、今は自治会から複数名運営に参加するよう呼びかけています。そのような部分でも関心の低さが感じられるので、ピンチはチャンスという思いに切り替え、市民性や地元への愛着を高める取組みが必要かと思っています。

**●出席者**

町企画課にも協力いただいて、ここ数年間、まちづくりシンポジウムを町内5箇所で開催し、「意見交換をする場がない」、「保育園の児童数が顕著に少なくなっている」、「交通費が高い」など、町民の生の声を聞いてきました。最終的には提言に繋げたいと考えていますが、未だ取りまとめが終わらず、その経験を踏まえ、町民が自主的にそのような場を運営していくことは難しいと感じています。議事録を作成する、周知するなどの点には限界があり、町の支援は欠かせないと思います。

また、総合計画審議会の委員募集について私も回覧で見ましたが、年1回の開催ということで、意見を吸い上げる場としては物足りなさを感じます。町民の生の声を聞く機会を確保することは重要ですが、町民主体での運営は困難なので、町民会議の後継組織はテーマを町の行財政運営に限定せず、産業構造や高齢化など様々な問題を対象とし、町の支援のもとで意見を聞く場として設けていただければと思います。

**●進行役**

ありがとうございました。

様々な意見が出ましたので集約すると、町民会議は初期の目的を達したので区切りをつけますが、町民の声を広く吸い上げる、町民会議とは違う形で何らかの後継組織は残す必要があり、そのあり方を考えていくことでよろしいですか。賛成多数のようなので、残りの時間は今後をどうするかについて意見交換したいと思います。

**●出席者**

町民会議委員の任期は終了しましたが、後継組織のあり方という積み残しもあるため、総括として、町長、議長、町民宛に具体的にタウンミーティングや総合計画審議会に準ずる機関、又は提言書をモニタリングする機関を今年度の設置もしくは来年度予算で確保することを提案するという方法もあるかと思います。

**●出席者**

先ほど話のありました総合計画審議会については、年1回の開催では形骸化する懸念もあるので、四半期ごと程度で開催し、意見交換の場としてはどうかと思います。

**●進行役**

それでは一旦休憩とし、出していただいた様々な意見を詰めて、今後をどうするか考えていきたいと思います。

【休 憩】

### ●進行役

今後をどうするかについては、会議体の仕組みよりどのような組織にしたいかをテーマにした方が意見を出しやすいと思いますので、そのテーマでディスカッションしていきます。

先ほど、幅広い町民の生の声を聞ける場とする、若い世代が参加する、気軽に意見交換できるなどの意見がありました。この辺りは皆さん異論ないと思いますが、具体的な方法としては、総合計画審議会のような議論する場を、町の支援のもと町民主体で運営するという意見がありました。

私が知っている事例では、行政職員が係わらず住民が自主的に意見交換を行っていることが多いです。テーマとしては、喫緊の地域課題を議論する場もあれば、長期的に未来を見据えたまちづくりについて意見交換する場もあり、回数を重ねることで気軽に意見が出ているようです。さらに、そのような集まりに、行政職員が様子を見に来て意見を持ち帰る仕組みまで出来ている地域もあり、イベントとして行う所もあれば、仕掛けるのが好きという人達もいます。

意見交換の場では、始めからテーマを絞るより箱根町の住民としてどうしたいかを考えていくと課題やテーマが見つかってきます。高齢化が一番の問題であるとか、財政問題を解消すべきであるとか、出てきた意見が共通認識となり、ではどうするかという議論に繋がっていきます。

このようなことを、町民の方が自主的に行うことは経験上難しいと思いますか。

### ●出席者

広く聞くことを目的にするのではなく、何が問題となっているかを論点にすることだと思います。私達の感覚では、良い意見を多く持っているのに聞いてくれる場がない、町としては、意見交換や説明の機会をしっかりと設けているのに集まらない、これは勿体ないことだと思います。

提言が実現されることを目的とするのであれば、皆で意見を言うことで町は聞かざるを得ない状況になると思います。財政説明会は、町民会議の議論も取り入れ説明内容は十分であったと思いますが、町として、参加者数の少なさは仕方ないと思うのか、もっと参加してもらい多く意見を出してほしいと思うのか、どちらですか。

### ●企画課長

様々な意見を出してもらいたいと思いますし、町の説明も多くの方に聞いてもらいたいと思いますので、そのような意味では残念です。



議会でも、町民への意見聴取は頻繁に質問がありますし、意見交換や説明の場は非常に重要ですが、過去に定期的にそのような場を設けていたが参加者数が少なかったという経緯もあります。

●出席者

行政に対し、関心が薄れているのかもしれませんがね。

●出席者

財政説明会についてですが、平成 27 年度は固定資産税超過課税の導入であり町財政の厳しい現状を説明する内容でよかったと思いますが、今回は継続なので、3年間の町の取組みや、例えば世代間でのモデルケースにより、負担感や財源不足で実施できなくなるサービスなどを具体的に示すと身近に感じ分かりやすく、参加しやすかったかもしれません。町民には、数字やグラフでの説明は分かりにくいと思います。

●企画課長

限られた時間で様々な説明を行う難しさもありますが、今後の参考にさせていただきます。

●進行役

町民への情報の出し方の工夫ということですね。

●出席者

財政説明会は2時間の開催で説明が1時間、残り1時間では満足に意見を出すことは難しいと思います。

●出席者

意見を出してもらうことが重要と考えるのであれば、例えばパブリック・コメントで意見が10件以上なければ議案として上程できないなどのルールを設けなければ、町政に意見を反映させたとはいえないのではないのでしょうか。提言を出しても響かないのであれば議論を行う意味がないですし、何かを行うにあたっては案を作る時点から、どのような形式でも構わないので意見交換できる場が必要であると思います。

町としては、そのような場を是非設けたいのか、必要があれば開催するのか、どのような考えですか。

●企画課長

現状の町の広聴の取組みは改善が必要であると感じており、もっと積極的に行っていかなければならないかと感じています。

●出席者

町民会議を広聴の取組みと位置付けていただいていると思いますが、町に響かない部分があり、物足りないと考えているのが現実です。テーマを町民会議の内容に絞るかは別として、漠然と「どんな町にしたいですか」という意見交換を行っても、現状を踏まえると、よほどの仕掛けか町から強い要請がなければ成立しないと思います。

●企画課長

仙石原の官民連携まちづくりのプラットフォームは、ある程度テーマを絞って行政と住民や事業者と一緒に考えて行くもので、新たな取組みも行っています。

●出席者

現状は、地権者など関係者の参加が十分とは言えない状況があります。

●出席者

まず集めることが重要なので、参加者に対して何かしらのインセンティブを与えることも必要かもしれません。

●出席者

直接関係のある方には積極的に参加してほしいですが、説明する側に町外者が多いようでは説得力に欠けると思います。

宿泊事業者の方は、超過課税をどのように感じていますか。

●出席者

超過課税に加えごみ処理手数料の改定もあり、大変厳しい負担増となりました。

●出席者

事業者の方と住民では負担も説明に対する捉え方も全く違い影響が大きいので、しっかり説明する機会を設けることも必要かと思います。

●企画課長

今回は、直接、温泉旅館ホテル協同組合に行って理事長や理事の方々に今後の財源確保策について宿泊税も含めて説明を行っています。

●進行役

町の説明会に対する意見が多くなっていますが、議論を本題に戻して、皆さん自身で町民会議の後継組織を運営していく足掛かりは見出せませんか。

### ●出席者

私達で行っていくことは不可能ではありませんが、そもそも町民自身で変えていくという気質が説明会等の参加者数を見る限り感じられず、そこまで行くには時間がかかると思います。町のやり方が悪いと言いたい訳ではなく、意見を吸い上げられるような仕組みを、来年度からでも良いので町で検討して制度化してほしいと思います。

### ●出席者

町としては、町民会議は当初の目的を達成したので区切りを付けたいと考えているとのことですが、一町民が若い世代から高齢者まで幅広く集めて組織することは大変難しく、何らかの形で係わってほしいと思います。

前回の町民会議では、多くの委員が行財政運営をテーマとした会議は終了してよいという考えであったと思いますので、町民会議は町から終了の通知を出して区切りを付け、もし町が係わらないのであれば今後の組織も運営できないと思います。

### ●進行役

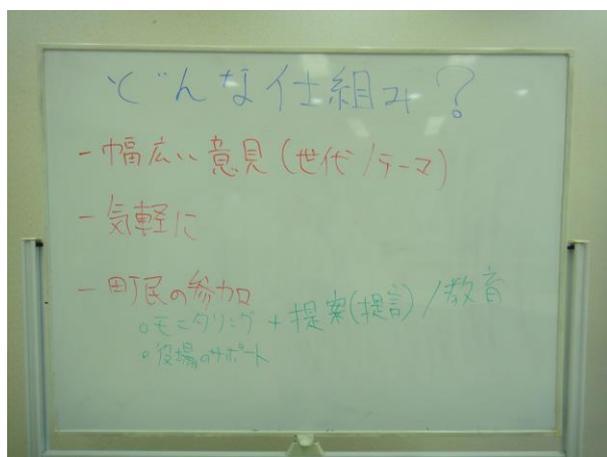
町で検討して制度化するというのは、町が係わるというより町に組織化してほしいということですか。

### ●出席者

町民会議は、皆さん選任されて委員という立場で議論していました。それを、今後は自発的にお願いしますと言われて行うのであれば、既に町長や町議会議員に立候補しています。

町民会議は区切りでよいと思いますが、そもそも町から提言内容を実施するという言質がない中で議論を続けてきて、今後も結果がない見通しの中で意見を出すのは無意味であると感じます。私達は町が次に繋がられるように提案したいと考えていますが、意見を出しても響かない、意見を出す人も限られてくるという問題があり、お互いに良い関係性を築いていくべきことを目的とするのであれば、会議体には拘らず、意見を聞いてくれる仕組みを作ってほしいと、提言書に加えて訴えるべきであると考えています。

議論を自発的に行うことができればとても良いと思いますし、その中から行政に携わりたいと思う人も出てくるかもしれません。教育分野についてもっと議論しようと言ってくれる委員さんもいると思います



が、そのテーマを今私達に決めろと言っても難しいと思います。

●出席者

周知方法について伺いますが、例えば、集合住宅は、回覧は掲示板に掲示されるだけなので気付かないこともあります。次に何かを行うとしても、十分な周知方法がないと結局町が人選することとなり、自発的にやろうという人は出てこないと思います。

●進行役

自治会では回覧がメインになると思いますが、それ以外の方法では、例えば私の住んでいる自治会では年に数回お祭りを開催し、参加費無料で飲食できるということを行っています。最初からは難しいですが、参加者へのインセンティブを仕込んでいき、それが口コミで広がり、家族で参加したり、様々なイベントの開催に繋がったりします。私の所も掲示板に貼りっ放しですが、自分から情報を取りに行かなければならないので、住民は掲示板を見るのが習慣になっている印象を受けます。あとは、参加してほしい方に対して個別に何回も告知し、知っている範囲で引き連れて参加してもらうしかないと思います。

●出席者

後継組織のあり方として、チェック機能をメインとした組織か、あるいは意見や提案を出す組織か、どちらが良いと思いますか。町民会議は両方の機能がありましたが、チェックは時間が掛かるので委嘱された委員だからこそ可能であったように思います。チェック機能は審議会のようなもので、町民としては提案型の議論の方が比較的行き易いと思いますが、そのような組織は現状ありますか。

●企画課長

町の制度としては、現状ありません。

●出席者

議会の役割が近いですがチェック機能がメインとなり、町民の意見を吸い上げることが前提となるので、吸い上げが足りないのであれば町民から直接意見を出す場がほしいということになります。

●出席者

それであれば、議会をチェックする、もしくは議会に提言することも考えられます。

●進行役

議会をチェックする組織もありますね。

●出席者

地域の意見としては、自治会が加入者からの声を吸い上げ、最終的に自治会連絡協議会から町へ毎年要望を出しています。その内容が実施されるかは、町の判断次第となっています。

●出席者

自治会連合会主催の意見交換会を開催してはどうですか。自治会で町長を連れてきたから、紙で要望しないで、ざっくばらんな意見交換を行う会を設けてはどうでしょうか。

●出席者

町への要望を行う際には、各自治会から意見が結構あがってきます。それを5地域の自治会連合会で相談して、今年度は、これとこれをといた形で取りまとめをしており、中には議員定数削減に関する要望が出されたこともあり、何年か前には、議員定数2名削減を要望して1名削減されたという実績もあります。

●進行役

今後のあり方については残り5分で決まらないと思いますし、時間を延長したとしても、まとめる所まで行かないと思います。本日、町民会議に一旦区切りをつけることは了承いただいたと思いますが、今後どうするかについて、少なくとも方向性がないと、このまま終わってしまうと思います。

その辺りをどうするかだけ、もう少し議論していきたいと思います。町側には特にアイデアはないということを前提に考えて行く必要があると思いますが、私としては皆さんで自発的に行うことを考えていましたが、これまでの議論を踏まえると、町と何かリンクしない限りは、実行性に乏しく、難しいという意見がありましたので、町と調整して進めていくという前提で、今後のあり方について議論する場を、今後、設けることはできますか。

●企画課長

町側としては想定していない内容なので、本日、できるかできないかを言うのは難しいと思います。

●出席者

町民会議を終了するのは、決定事項で良いと思います。

ただし、提出した提言書の実現に向けた仕組みや機構的な部分で、追加で我々が何

らかのことを提案して終わるのがいいのか。何もなしで終了するのがいいのかについて、今日、参加者も少ないので判断するのは難しいと思います。

町民会議のように住民が行政に興味を持って議論するのは、すごく良い事であると思いますので、今後、何か行おうとすれば、子育てや教育、福祉であれば意見が出易いということであれば、それをテーマにして一度、実施して下さいということは提案しても良いのではないのでしょうか。

観光分野は、観光協会や旅館組合、また、地域でも発言する機会がありますが、住民が自発的に何か削減すべきというような意見を持っているなかで、それを発言する場がなかったり、意見を聞く体制が無かったりというのは、勿体ないと思いますし、ALL 箱根で議論するという町民会議の切っ掛けでもあると思いますので、今後のあり方については、本日、参加していない委員も含めて決めた方が良いのではないかと思います。

●進行役

何らか一度実施したいという想いがありますか。

●出席者

総括的な話で、一度実施するということですか。

●出席者

町から説明のあったアンケート調査も委員の半分しか回答が無い状況があります。

●出席者

アンケートは、回答に悩んだので提出しなかった方も多いと思います。正解がない中で、どちらかを選ぶか非常に難しいと感じました。

●出席者

本日、参加していない8名の委員も含めて、町から正式に町民会議の今後については、区切りを付けて終了しますという通知をお願いしたいと思います。

ただし、次の組織をどうするかについて、再度、集まってもらって議論してはどうかという意見があったということを記載し、他の委員から改めて会議を開催したいという意向がなければ、議論を終了するという形で良いのではないのでしょうか。

●出席者

再度、会議の通知を出しても、また、このメンバーしか集まらない可能性もあるので、終了するのであれば、町から通知してもらっただけで良いのではないのでしょうか。

●企画課長

いずれにしても、本日の結果は、全ての委員さんに報告したいと考えています。

●出席者

積極的に関わりたいという意向の委員さんもいると思います。実際に、先ほど電車バス共通定期券は、町民会議での意見が契機となり取組みが進んでいるという話もありましたが、すごく良い成果であると思います。

町民だけで、そのような事を議論し実行していくのが難しいというのは、本日の参加者の総意であると思いますが、何らかの課題に対し、行政に伝えて対応してほしいということを発言する仕組みは、今後にも必要ではないかと思います。

●出席者

バスの話であれば、仙石原では別組織の高校保護者会で行っています。

また、町の補助を増やしてほしいということなどを議論するのであれば、行財政の問題を議論しているのに財政負担が増えることになるので、見方によっては町への圧力団体と捉えられてしまう恐れもある。

町民会議は財源問題を契機に設置されたのに、町への要望が多く出され、財源が更に必要となるのは町としても困ってしまうと思う。皆さんの悩みも分かりますが、町民会議の委員として、行財政のことを理解してきた中では、町の状況も考える必要があると思います。

●出席者

町民会議の議論の中では、行政サービスを削減してはどうかという意見もありましたが、その議論がこれで終わってしまうのは、勿体ないという気がします。

●出席者

先日、議会を傍聴しましたが、議員さんからある地域では、小学校も廃校、幼稚園も廃園となったので、地域全体で何十パーセントも公共施設を削減している。だから、これ以上は譲れないというような発言をしていました。

議会で、今でも箱根町全体の話ではなく5地域のバランスの問題を訴えているのを聞いて、少し寂しく残念な印象を受けました。

●出席者

5地域の全てを住みやすいようにバランスよく整備ができないのであれば、例えば、住む人は宮城野地域に集まるように、素晴らしい施設を集中的に整備するような極端なことを行わないと無理だと思います。

町は、5つの地域のバランス問題で一番苦勞してきたのではないかと思います。

●出席者

仙石原では、平成37年頃に小学校の大規模改修を行う計画があるようですが、その頃、生徒がどれだけいるのか、1クラスで十数人しかいない状況を見ると疑問に感じてしまいます。その頃には、改修ではなくて合併を議論すべきではないかと思う。

校舎へのエアコン設置は、それまで待つてほしいという話を議会でしていたが、もっと根本的な議論をしてほしいという想いはあります。

●進行役

町民会議の今後をどうするか、改めて会を設けても、このメンバーしか集まらなさそうだという意見もありました。その中で町民会議の教育分野の委員さんの意見を反映させるような場をという意見が出ましたが、教育が関連するようなイベントを行ってみる。その中で、新たな議論の場や仕組みを考えていくという方法もあるのではないかと思います。最初に、何らかイベントを行うので、少し手伝って下さいという形であれば、参加は可能ですか。

●出席者

今日のこれまでの議論を踏まえて、町側で何らか考えてもらえますか。

超過課税がいつ終わるか分からない中で、町民が町政に関心を持つ意識や機運を町全体で今後も高めていく必要があるのは、町民会議の委員の総意だと思います。

町民にとって良い話もあれば、悪い話もあると思うので、今年度からとまでは言いませんので、町から情報提供を行いつつ何らか議論する場について、これから来年度予算編成を行っていくなかで、検討してほしいと思います。

●企画観光部長

そのような場を設けるのであれば、建設的な議論の場とする必要があります。

また、町民会議の設置の経緯である財政問題を1から説明するのであれば、出前講座という制度もあるので、それを活用する方法もあります。

町民会議では、庁内の会議で出すような資料をもとに説明を行い、行財政の状況を理解してもらいながら議論してきました。そのような面では、町の行財政運営について、専門的な話ができるようになった方々だと考えています。

さらに幅広い町民から意見を聞くべきだという考え方は理解できますが、町民会議委員が、会議を重ねる中で得た専門性の部分を活かしながら、新たな仕組みを考える必要があるのではないかと思います。

その出発点をゼロからにしてしまうと、議論の対象が広がり過ぎてしまう恐れもありますので、特定分野に絞って考えていくことが必要ではないかと思います。

## ●出席者

それは、心強い意見だと思います。

## ●出席者

財政問題の根本には、人口減少問題があると思います。子育て世代は、将来どうなるのか。保育園が存続できるのか。高校生の通学費補助が無くなってしまうのではないかと。そうであれば箱根町から出て行くという恐れが、将来的に現実のものとなってしまうかもしれません。

先ほど若い世代の声をもっと聞いた方がいいという意見がありましたが、子育て、教育、そして人口減少や町の将来を考え、参加して良かったと思える企画を考えてもらいたいと個人的に思います。

## ●出席者

先ほど部長が発言した専門性の部分ですが、これまで分けずに議論してきましたが、今後、何らかの会議体が必要となってくると思います。その際に町民会議の委員や議論も踏まえる必要があると考えていると捉えて良いのでしょうか。

## ●企画観光部長

箱根町の行財政を、もう一度、最初から新しい人達に説明し直して議論するという事は、資料作成や会議運営を考えると職員にはかなりの負担となります。業務と言えばそれまでですが、この他にも業務を抱えている中で、今回の町民会議では、固定資産税超過課税が3年間の時限措置となった中で、今後の行財政運営について考えるために、町としても精一杯の対応をしてきたと考えています。

## ●出席者

一緒くたに考えてしまうと難しくなると思います。今後の大きなテーマとしては、行政と議会と町民のリレーションが不足している。これは、町としても何らか継続して取り組んで行く必要があると思います。

専門性の部分では、我々が継続してチェックしていかなければならないと思う部分と、町側としても我々を味方につけないと思う場面もあるかもしれませんが、来年度以降に会議体を含めて検討していくということで良いですか。

また、行政と町民のリレーションの向上の1つの案として、町民会議の提言書にある大きなテーマのうち多くの方が関係するものを選んで、町全体のイベント又は地域別の催しなど色々考えられると思いますが、何らか催しを行えるか検討してもらえると良いですか。

●企画課長

冒頭から説明していますが、町の現状の広聴体制は十分であるとは思っていませんので、その部分についてしっかりと取り組んでいく必要であると考え、第6次総合計画でも位置付けています。

●出席者

その部分は、何とも言えないということであれば、また、提言書を出そうかということになってしまうので、町の方で検討してもらえるとということで良いですか。

また、町から委員に対しては、町民会議は、ここで区切りをつけて終了しますということは、通知してもらえるとということで良いですか。

●企画課長

本日の考える会の結果については、委員の皆さんにお知らせしたいと思います。

●出席者

もう1点、教育関係の議論が、このまま終わってしまうのが勿体ないなという想いがあるので、是非、欠席された委員には、町側から本日の議論の経過も伝えていただいて、それを踏まえて、さらに意見交換がしたいという意向があれば、以前行った勉強会のような形で任意に集まって議論できるように対応して欲しいと思います。

●進行役

何らかの機会で、皆さんの意見が出せるようなイベントは、大学としても考えたいなと思っていますので、そのような催しに乗っかってもらう方が、皆さんも町側も気が楽であると思いますので、何らか最初のお膳立ては何とかしたいと思います。

テーマがどうなるかは、教育になるか経済になるかはありますが、そのような催しを行う際に、役場も呼びかけの部分で努力が必要であると思いますし、皆さん自身も呼びかけに協力してもらいたいと思いますし、皆で一緒に行うのであれば、協力したいと考えています。

今年度、開催したいと思いますので、実施した結果、これであれば今後、行う必要が無いと思わせるか、これであれば継続して行っていくべきだと思わせるかという部分に皆さんも協力して貰いたいと思います。

●出席者

町と横国大の共催で、子育て世代をターゲットに「あなたは本当に幸せですか」のようなテーマでシンポジウムなどを企画し、その中で町長も交えて色々な意見を言い合えるような場を官学連携で行うのは、面白いと思います。

●企画観光部長

今年、包括連携協定も締結している意味でも、良い取組みではないかと思えます。

●出席者

その意味では、小学校や中学校で家庭教育講座というものがあり、テーマがなかなか決まらず、困っている部分もあると聞いたことがあるので、PTA に投げかけをしてもらえれば、協力できるのではないかと思えます。

●進行役

何らかそのような場を設けるということで、皆さんよろしいでしょうか。

それでは、これで意見交換は、終了したいと思います。

閉 会

●企画観光部長

それでは、皆さま大変お疲れ様でした。本日も大変お忙しい中ご参加いただき、活発にいい議論ができましたことを感謝しています。

冒頭、課長のあいさつにもありましたとおり、町民会議の今後については、前回の会議での議論を踏まえ、今後を考える会という形で開催させていただきましたが、本日の結果をもって、町民会議の活動の節目ということで、会を納めるができ一安心というところがございます。委員であった皆さまにおかれましては、2年間の任期に加え、本日もご参加いただき、誠にありがとうございました。

また、池島先生におかれましては、町民会議のアドバイザーに引き続き本日の会の進行役もお引き受けいただき、まさに多大なご協力をいただきました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。

町としましても町民の皆さまへの情報提供や意見を伺う場を設けることの重要性は十分認識しておりますので、本日の結果も参考にさせていただきながら、来年度以降、町としても何らか取組みを行っていきたいと考えております。

それでは、本日までの皆様のご協力に重ねての感謝を申し上げまして、「町民会議の今後を考える会」を閉会させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。